

アルミは在庫搬出遅れ懸念で反発

LMEアルミ相場は16ドル高の1,821ドルと反発。LME在庫を巡る裁判の長期化で指定倉庫からの搬出遅れが懸念された。アルミ合金は61.5ドル高の1,970ドル、北米特殊アルミ合金は7.5ドル高の2,302ドル。

ニッケルは銅下落に連れ安で反落

LMEニッケル相場は120ドル安の1万8,970ドルと反落。銅下落とユーロ安に追随した。

KLTM錫は28.6セント続落

採算値は8,000円安

KLTM錫は28.6セント安の75.053Mドルと

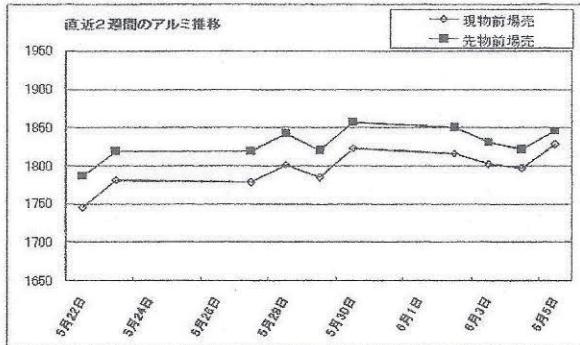
橋本健一郎氏の銅5月レポートと6月見通し

■概況:前半は4月の中国製造業購買担当者指数が50.4と予想の50.5を下回ったことや米FOMCで資産購入枠を月450億ドルに圧縮した事などのマイナス材料はあったが4月のISM製造業景況指数は54.9で事前予想の54.3を上回ったこと、上海在庫が10万トン割ったこと、LME在庫が20万トン割れ寸前まで減少した事から中国の銅需要拡大観測が台頭。またLMEニッケルが2万ドル超えをしたことも追い風となり上昇。6677ドル(セツル)と前月最終価格より200ドル上げての前半締めとなつた。

後半は5月の中国HSBC製造業購買担当者景気指数が49.7に上昇したこと、中国の李首相が先週末に企業の資金需要へ応えるように金融機関は方針を調節すべきと発言したこと、中国の景気刺激策に対する期待が高まつたこと、ユーロ圏サービス業PMIが53.5と予想に反して良かったことなどのプラス材料もあったがインドネシア経済担当調整大臣の禁輸緩和発言でニッケルが再び2万200ドルから1万9,300ドルまで暴落。また5月の中国HSBC製造業PMI改訂値は49.4に下方修正、5月のユーロ圏CPI速報値は前年比0.5%上昇したが予想の0.7%上昇は下回つたこと、さらに中国青島港保税倉庫で銅2万トン、アルミ8万トンの倉荷証券が複数の金融機関の担保にされている多重債務問題が台頭、現在は鉄鉱石、銅、アルミの出荷停止が行われてるとの報を受け下落した。6月5日現在、前半締めから142ドル下落の6835ドル、建値75万円スタートとなつた。

■前月の経済指標:月間のドル/円レート(TTS)は103.20円→102.74円。日本自動車工業会による自動車生産台数は前年比+3.4%の77万484台。日本自動車販売協会連合会による自動車販売台数(軽除く)は前年比-5.6%の20万6906台。国土交通省統計による新設住宅着工戸数は前年比-

続落。USドルは10ドル安の2万3,290ドル、出来高は21トン。Mドル/USドルレート=3.2225とTTSレート103.36円で換算した採算値は8,000円安の241万2,000円、諸掛込みの採算値も8,000円安の257万2,000円。



3.3%の7万5286戸であった。貿易関連指標を見ると、財務省貿易統計による輸出は前年比で電気銅が-18.7%の3万6486トン、スクラップが-23.5%の2万1617トン。輸入は電気銅が前年比-33.2%の3374トン、スクラップが+27%の6569トンとなった。前月の国内指標を見ると日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)では前年比+8.3%の7万880トン。日本電線工業会発表の銅電線出荷速報(推定)では前年比+6.5%の5万8500トンであった。

■見通し:4月は中国経済減速懸念およびインドネシアのニッケル禁輸措置への対応に一喜一憂した月となつた。自動車生産は77万484台で前年同月の74万5,320台と比べ2万5,164台、3.4%増加となり8か月連続で前年同月を上回つた。乗用車は65万2,490台で2万806台、3.3%増加となり8か月連続プラス。トラックは10万7,563台で5,144台、5.0%増加となり10か月連続プラス。バスは1万431台で786台、7.0%減少となり5か月ぶりマイナスとなつた。このうち大型は731台で39台、5.6%増加、小型は9,700台で825台、7.8%減少。4月の内需は34万5,226台で前年同月比5.5%減(うち乗用車が29万2,826台で同5.1%減、トラックが5万1,757台で同7.1%減、バスが643台で同28.6%減)となつた。輸出は前年同月比5.4%減(実績)で販売は20万6906台と-5.6%。うち乗用車が-6.9%、貨物が+4.7%、バスが-19%となった。4月の住宅着工戸数は7万5286戸(前年同月比3.3%減)、季節調整済年率換算値で90.6万戸(前月比1.3%増)と2か月連続マイナス。消費マインドの改善等もあって堅調に推移してきたが足下では消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動が表れている。前年同月比では、持家が3か月連続減(16.1%減、季節調整値の前月比4.0%増)、貸家が14か月連続増(12.0%増、季節調整値の同2.8%増)、分譲住宅が3か月連続減(7.8%減、季節調整値の同5.7%減)、分譲

マンションが3か月連続減(16.9%減)となった。

伸銅品生産は前年比+8.3%の7万880トンで2011年7月以来の7万トン超え。内需は+9.7%の5万8589トンと8か月連続増、輸出は+3.4%の1万2291トンと3か月連続増、銅条は+5.1%の2万900トンと10か月連続増、黄銅棒は+15.8%の1万6794トンと10か月連続増となつた。銅電線出荷量は前年比+6.5%の5万8500トンで、このうち国内が+1%、輸出が+309%、通信が-10.9%、電力が-20.9%、電気機械が+1.2%、自動車が+3.8%、建設電販が+2.8%、その他内需が12.9%となつた。輸出は電気銅が前年比-18.7%の3万6486トン、銅スクラップは-23.5%の2万1617トン。先月に続きドル円は102円台で変わらずだが発生難、好調な需要を背景に国内需要家が原料手当を急いだため電気銅、スクラップ輸出は減少。輸入は電気銅が-33.2%の3374トン。スクラップは+27%の6569トン。電気銅は先月の大量入荷で一旦落ち着いた。スクラップは国内発生屑の減少及び価格停滞による原料の出し渋りから代替品として輸入品が大幅増加。

銅需給に関して、住宅関連は新設住宅着工数が前年比-3.3%と2か月連続減少、持家-16.1%、貸家+2.8%、分譲住宅-5.7%、分譲マンション-16.9%と大幅減少。2か月連続減少で消費税前の駆け込み需要も終了確定か、来月の動向に注視したい。自動車は生産が8か月連続上昇の+3.4%、但し5月の国内販売台数が前年比-5.6%と減少。今のところ販売減にも関わらず生産は堅調、来月以降に注目。前月に続き消費税前のかけ込み需要の反動から住宅、自動車需要の2本柱が減少傾向にあり共にどの水準で落ち着くか注視したい。為替が前月から引き続き102-103円近辺と円高が継続。LME上昇を受け建値が75万円



端出	2月	3月	4月	
	電気銅	3万 5518t	3万 7912t	3万 6886t
前年比	-36.9%	-46.6%	-18.7%	
スクラップ	17326t	2万 556t	2万 1617t	
前年比	-21.8%	-33.4%	-23.5%	

付近まで上昇したが発生を上回るスクラップ需要から需給は今後も引き締まるだろう。駆け込み需要は終了した感はあるが慢性的なスクラップ不足も加わり需給は縮まり気味。

銅価格に関して、今月はインドネシアのニッケル鉱石の禁輸措置政策への対応及び中国・青島港の多重債務問題に左右される。インドネシアのニッケル鉱石の禁輸措置政策への対応に関してはインドネシア国内への精錬所の建設が担保されれば、即時に減税するのではとの報道もあり緩和する方に向かうのは確か。ただ今月中にこれらが解決される可能性は低く年内は一喜一憂しそうだ。一方、中国・青島港の多重債務問題に関する多かれ少なかれ事実であると認識しているが一旦はセンチメントの悪化やパニックから暴落する可能性はあるものの中国政府が不良債権の買い取り機関などの策をとると考えており来月以降は落ち着いた相場展開になるのでは。

それらを踏まえた銅価格は、上値がインドネシアのニッケル鉱石の禁輸措置政策でのトラブル及び中国・青島港の多重債務問題への道筋が確認された場合にニッケルのパニック買いを受けて5月高値のもう一段高の7100ドルを予測、いずれかの場合は6800ドル。下値はニッケル鉱石金融問題での目途や青島多重債務問題での未対応が起これば失望感から5月後半もう一段安値の6600ドル。為替TTSは欧州PMIをはじめとする指標が比較的安定してる事や米経済指標も堅調なことから欧米共に変化のない場合に下値はドルユーロ高円安から3月安値の104円台。上値は欧米の経済指標が著しく悪化した場合に失望感から102円まで円高が進むと予測。銅建値は710-780円程度と予測。

	2月	3月	4月	
	生産台数	80万 6211台	82万 4114台	77万 484台
前年比	+7.1%	+14%	+3.4%	
	3月	4月	5月	
販売台数	48万 10394台	18万 8864台	20万 6906台	
	前年比	+17.8%	-11.4%	-5.6%
新設住宅着工数	6万 9689戸	6万 9411戸	7万 5286戸	
	前年比	+1%	-2.9%	-3.3%
輸入	2月	3月	4月	
	電気銅	1400t	7495t	3374t
前年比	-15%	+363.4%	-33.2%	
	スクラップ	7337t	8206t	6569t
前年比	+35%	+40.3%	+27%	

